

福島県産農林水産物の放射性物質検査結果について  
二瓶直登  
(東京大学大学院農学生命科学研究科附属放射性同位元素施設)

東京電力福島第一原子力発電所の事故後から、福島県では、農林水産物の安全性を確認するために、「農林水産物に係る緊急時環境放射線モニタリング(以下モニタリング検査)」を行っている(約 41,500 点)。また、平成 24 年度の米に関しては、福島県内で生産される玄米袋の検査(約 10,300,000 点)を実施した。これらの結果を用いて、農林水産物への放射性物質(主に放射性セシウム)の影響を時期や地域性(浜通り、中通り、会津地方)に着目して解析した。検査結果は web site で公表されている。

モニタリング検査(ふくしま新発売) <http://www.new-fukushima.jp/>

米の全量全袋検査結果(ふくしまの恵み安全対策協議会) <https://fukumegu.org/ok/mieru/>

(1)2011年3月から2011年6月までの結果

100Bq/kg 以上の放射性セシウム( $^{134}\text{Cs} + ^{137}\text{Cs}$ )が検出された地域は、野菜・果樹、林産物は主に中通りと浜通り、畜産物は主に浜通り、水産物は福島県内全域であった。この時期は、放射性物質の直接降下による汚染影響が大きく、葉面積の大きいホウレンソウでは最大値 34,000Bq/kg であった。またこの時期には半減期の短い放射性ヨウ素( $^{131}\text{I}$ )が検出された。

(2)2011年7月から2012年3月までの結果

林産物は、中通りと浜通りで放射性セシウム 100Bq/kg 以上のサンプルが検出され、これまでの報告と同様に、他の品目と比べてセシウムを蓄積しやすい特性が認められた。水産物は県内全域で、放射性セシウム 100Bq/kg 以上のサンプルが検出された。野菜・果樹、穀類(米除く)、米は放射性セシウムはほぼ 100Bq/kg 以下であり、土壌を介した根からの吸収は少ないと考えられた。しかし、一部の果樹では 100Bq/kg を超える検体もあり、樹皮から果実部への移行等が考えられた。

(3)2012年4月から2013年3月までの結果

山菜・キノコ、水産物以外では、放射性セシウムが 100Bq/kg 以上のサンプルは非常にわずかであった。特に米は約 10,300,000 点を検査し、100Bq/kg を超えたのは 71 点のみであった。林産物、水産物の放射性セシウムも徐々に低下しているが、100Bq/kg 以上のサンプルも検出された。

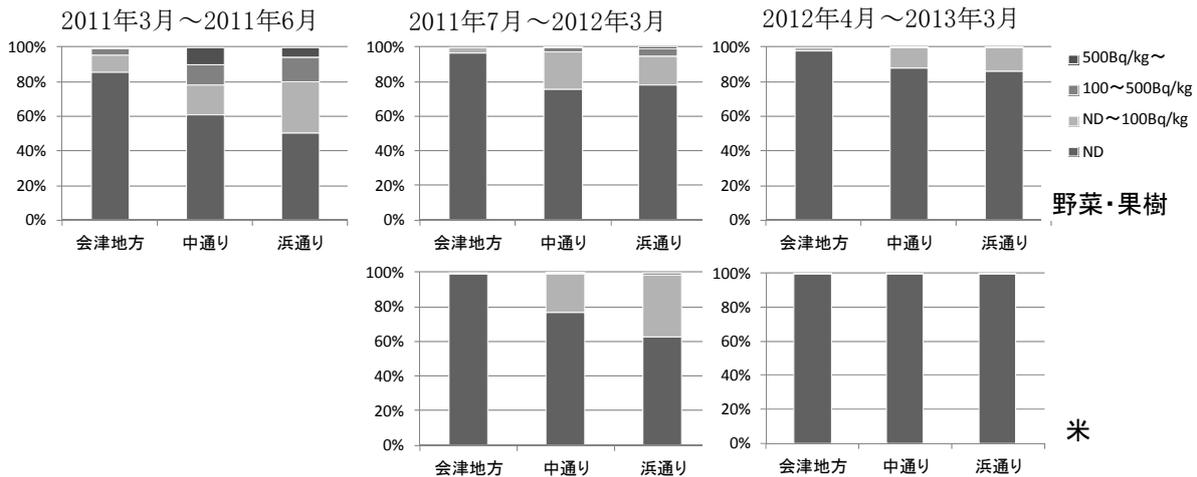


図 時期別の農林水産物の検査結果

(参考)米の全量全袋検査に関する福島県の HP

[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=31330](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=31330)

(謝辞) 本発表の取りまとめに際し、福島県農林水産部の皆様には多大なるご指導と協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。